



ガイドブック

「復興現場の歩き方 宮城県 2013年度版」より

カルチャー部門
コミュニケーション



瀧澤 勇人

東北震災復興ツーリズム協会ホームページ
<http://tohokuru.com>



いいね！ シェア 0 ツイート



■作品の用途及び目的、制作の経緯

【活動の背景】

東日本大震災から2年半が経過しました。

津波で多大な被害を受けた商店・企業が、復興を期して立ち上がり仮設店舗で毎日頑張っています。

しかし、本格的な復興にはほど遠く、まだまだ厳しい状況が続いています。

復興を目指す商店・企業のなかには、長く地元で愛され人々の暮らしを支えてきた伝統あるお店・企業も多いですが、事業を継続して本来の状態に戻すには、まだ多くの人の継続的な支援が必要です。

また、これまで遠方から被災地を訪れた人々の話を聞くと、実際の現地は多くが更地に近い状態であるため、そこに以前人々の暮らしがあったことを想像することは難しく、結局よく判らないまま帰られる方も多いことを知りました。

加えて、どこでどんな支援団体が活動しているのか、被災した人々の暮らしはどうか、まとまった情報



も少なく現場が見えにくいことが気になっていました。

そこで、これらの情報をまとめて復興現場を紹介・案内するためのガイドブックを制作し出版しました。

このガイドブックは、震災前後そして現在の写真を比較できるように掲載し、津波がどこまで到達したのか地図でわかるようになっています。初めて被災地に来る方でも震災前の様子がわかるようなガイドブックになっています。

また、観光資源としては表示しにくい被災のキオクを留めているメモリアルスポットの紹介や被災した小学校のストーリーを復興資源の一つとして紹介しています。

復興商店街の商店、現地で支援活動をしているNPOも紹介している被災地の今を伝えるガイドブックです。



■作品のコンセプト

被災地の今を伝えるガイドブック

■作品のメッセージ

「被災地にもっと人を」

■応募者の復興への取組

2011年3月、東北電力（株）福島支店（福島市）勤務中に被災。避難所を最優先に停電復旧工事、災害ボランティアに従事。

同年7月 社会貢献のため休職し、宮城県災害ボランティアセンターで復興支援ボランティアとして活動。1年半が経過し、ボランティアの数も減り、風化しつつあったため2012年8月「東北の復興現場にもっと人を」をスローガンに、東北震災復興ツーリズム協会を立ち上げる。

2012年11月内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業「文化なしごと創造事業」起業支援採択事業に「復興現場の歩き方」出版プロジェクトが採択され、本格的に事業開始。

宮城県を中心に、現地で活動している団体、復興を目指して頑張っている商店、企業、復興商店街を取材。

「復興現場の歩き方 2013年度版宮城県」を制作。継続的に活動していくため仲間を集め2013年3月 一般社団法人（非営利型）とほくるを法人化。